

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第五学年 国語

組

番号

名前

模範解答

【「言葉」を問う問題】

1 次の文の のじゅつ語に対する主語を 線部1～4の中からそれぞれ選びましょう。

(1) 道ばたに 1 小さな 2 花が 3 ぼつんと 4 さく。

主語：「だれが（は）」「何が（は）」
述語：「どうする」「なんだ」「どんなだ」

レベル8

(2) 姉が 1 出す 2 なぞなぞは 3 とても 4 むずかしかった。

(2) は、「姉が」と「なぞなぞは」でなやむ問題です。述語が「むずかしかった」なので、むずかしかったのは姉となぞなぞのどちらなのかを考えてみましょう。

3

2 次の文の の言葉がくわしくしている言葉を1～4からそれぞれ選びましょう。

(1) わたしは 1 明日、2 白い 3 服を 4 着る。

修飾語：「いつ」「何を」
「どのように」「どんな」
など、ほかの部分の内容をくわしく説明する言葉

3

レベル5

(2) 十一時に 1 田中さんの 2 家の 3 前に 4 集まろう。

 の言葉とほかの言葉をつなげて読んだときに、意味が通るものがくわしくしている言葉です。（例…白い 着る ↓× 白い 服を ↓○）

4

3 次の文の中から、線部の漢字の読み方が他とことなるものを、ア～ウからそれぞれ選びましょう。

(1) ア ケーキを平等に切り分ける。
イ 世界の平和を願う。
ウ じょうぎを使って平行な直線を引く。

↓ びょうどう
↓ へいわ
↓ へいこう

ア

レベル5

(2) ア 具合が悪かったので学校を休んだ。
イ サッカーの試合に勝ってうれしい。
ウ クラスのみんなで合唱する。

↓ ぐあい
↓ しゃあい
↓ がっしょう

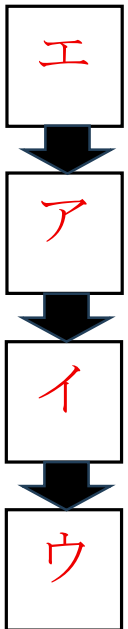
ウ



4 次のア～エの漢字を、漢字辞典の「そう画さくいん」で調べるときに出てくる順番にならびかえましょう。

ア 印 六画
イ 弟 七画
ウ 刷 八画
エ 世 五画

「そう画さくいん」は、漢字がそう画数の少ないものから順にならんでいます。



レベル7

5 の中からた意味をもつ漢字を組み合わせ、二字のじゆく語を三つ作りましょう。

解答の順じよはこの通りでなくてもよいです。

レベル8

強 周 岩 辺
思 石 読 考

周 辺 岩 石 思 考

6 次の には同じ言葉が入ります。 の中からそれぞれ一つずつ選びましょう。

レベル6

(1) えびのてんぷらを
妹にプレゼントを
話を聞くために顔を

あげる

(2) 七五三に 着物を 。
折り紙をはさみで 。
レタスをあらって 水気を 。

きる

きる かける とる あげる

7 次の文章の は、何を指していますか。文章中から三字で書きぬきましょう。

レベル6

(1) 三丁目にある大きなプール。ぼくはあそこで平泳ぎの練習をした。

プール

(2) 冷どう庫にプリンが入っています。おやつにそれを食べていいですよ。

プリン

「あそこ」や「それ」などの
「こそあど言葉」は、前の文に出てきた
言葉を指していることが多いです。

復習シート 第五学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「話すこと・聞くこと」を問う問題】

- 1 田中さんたちは、六年生を送る会で行う「五年生の出し物」の内ようについて話し合っています。次の【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

田中さん

それでは、六年生を送る会で行う五年生の出し物として、どんな内ようがいいか話し合います。五年生らしさが伝わる内ようになるように考えてください。

青木さん

五年生の出し物としては、六年生に『ありがとう』の気持ちが伝わる内ようにするのがいいと思います。委員会活動や行事でお世話になったことを取り上げて、感謝の言葉を伝えるといいと思います。

Aさん

感謝の気持ちを伝える内容はいいですね。でも、六年生に気持ちがより伝わるようにするには、どんな伝え方がいいと思いますか。

～ここからは、話す順番が整っていません。～

Bさん

さらに、六年生がしてくれたことに対して、これから自分たちがどうしていきたいかも伝えと、感謝の気持ちがもつとはつきりすると思います。

Cさん

伝え方を工夫するなら、六年生と一緒に活動したときの写真や思い出の場面を使って伝えと、どんなことに感謝しているのかが分かり、気持ちが伝わりやすいと思います。

Dさん

たとえば、最高学年としてがんばる決意を伝えるのはどうでしょう。そうすれば、『六年生のおかげです』という感謝につながると思います。

田中さん

みなさんの意見をまとめます。出し物は、六年生への感謝の気持ちが伝わる内容にします。そのために、感謝の言葉を伝え、写真や思い出の場面を使って分かりやすくします。また、六年生への感謝を伝えるために、最高学年としてがんばる決意も入れるようにしましょう。

- (1) Aさんの発言についての説明として、ふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えましょう。

レベル6

ア 友だちの意見を受けて、話し合いをさらに進めようとしている発言

イ 出し物の内容だけでなく、伝え方にも目を向けさせている発言

ウ 話し合いで出た意見を整理し、みんなの考えをまとめている発言

エ ほかの^{しゅもん}人に質問をして、話し合いを深めようとしている発言

イ

Aさんの発言は、友だちの意見を受けて、伝え方について考える質問をすることで、話し合いをより深める役割をしています。

(2)

BとDさんの発言を、話し合いの流れとして最もよい順になるように、上から下に並びかえましょう。

レベル8



「伝え方の工夫について提案する↓さらに工夫できることを追加で提案する↓
具体的な工夫を出す」という話し合いの流れになるように並びかえましょう。

復習シート 第五学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「書くこと」を問う問題】

1 次のア～エのカードは、雲ができる仕組みについての文章の一部です。仕組みを説明する文章として適切な順番となるように、正しく並びかえましょう。

レベル7

ア こうしてできた無数のつぶが、空気の流れに乗って集まり、雲となります。以上のように、雲は地球の水がすがたを変えて空を旅しているものなのです。

イ まず、海や地面にある水が太陽の熱であたためられます。すると、水は目に見えない「水じょう気」へとすがたを変え、空高くのぼっていきます。

ウ 空にうかぶ雲は、実は小さな水や氷のつぶでできています。では、なぜそれらが空にうかんでいられるのか、その過程^{かてい}を順に見ていきましょう。

エ 次に、空の上は地面より気温が低いため、のぼった水じょう気は急に冷やされます。そこで再び^{ふたたび}元の水や氷のすがたに戻り、細かいつぶになるのです。

ウ



イ



エ



ア

ウの「順に見ていきましょう」で説明を始めているので、これが最初です。イ「まず」↓エ「次に」と進み、最後にア「以上のように」で全体をまとめて説明を終えています。

② 次のア～エのカードは、ある児童のスピーチの一部です。スピーチ内容として適切な順番となるように、正しくならびかえましょう。

レベル7

ア そうして生まれた静けさの中でなら、ふだんは言い出せずにいる仲間の小さな思いにも、きっと気づけるはずです。そのような思いを受け止めることが、話し合いには必要なのではないのでしょうか。

イ 先日の学級会でのことです。みんなが同時に大声で言い合うばかりで、話し合いが全く進まないということがありました。今のわたしたちには、話し合いで相手の話を聞く落ち着きが足りないのではないのでしょうか。

ウ この活動を通して、だれもが安心してすごせる温かい学校を作っていきませんか。話す力と同じくらい「聞く力」を育てる場所を、わたしといっしょに目指しましょう。

エ そこでわたしは、相手の言葉にじっくり耳をかたむけるための「聞き方タイム」をてい案します。まずは静かに相手の目を見て、最後まで話を聞くことを話し合いの約束にするのです。

イ



エ



ア



ウ

イで「先日の出来事」を紹介して問題点についてふれており、これが話のスタートです。次にエの「そこで」で、その問題を解決するための提案をします。続いてアの「そうして」で、提案を実行したあとのよい状態を述べ、最後にウで目標を共有してしめくります。

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第五学年 国語



組

番号

名前

模範解答

【「読むこと」を問う問題】

1 次の文章を読んで問いに答えましょう。

わたしが子どもだったじぶん、わたしの家は、山のふもとの小さな村にありました。わたしの家では、ちようちんやろうそくを売っておりました。

あるばんのこと、一人のうしかいが、わたしの家でちようちんやろうそくを買いました。「ぼうや、すまないが、ろうそくに火をともしてくれ。」

と、うしかいがわたしに言いました。

わたしはまだマツチをすったことがありませんでした。

そこで、おっかなびつくり、マツチのぼうのはしの方をもつてすりしました。すると、ぼうのさきに青い火がともりました。

わたしはその火をろうそくにうつしてやりました。

ア「や、ありがとう。」

といって、うしかいは、火のともったちようちんを牛のよこはらのところにつるして、いつてしまいました。

わたしは一人になってから考えました。

イ——わたしのともしてやった火はどこまでゆくだろう。

あのうしかいは山の向こうの人だから、あの火も山をこえてゆくだろう。

山の中で、あのうしかいは、べつの村にゆくもう一人の旅人にゆきあうかもしれない。

するとその旅人は、

「すみませんが、その火をちよつかしてください。」

といって、うしかいの火をかりて、じぶんのちようちんにうつすだろう。

そしてこの旅人は、よつびて山道を歩いてゆくだろう。

すると、この旅人は、たいこやかねを持ったおおぜいの人々に会うかもしれない。

その人たちは、

「わたしたちの村の一人の子どもが、きつねにばかされて村にかえつてきません。それでわたしたちはさがしているのです。すみませんが、ちよつとちようちんの火をかしてください。」

といって、旅人から火をかり、みんなのちようちんにつけるだろう。長いちようちんやま

るいちようちんにつけるだろう。

そしてこの人たちは、かねやたいこをならして、やまや谷をさがしてゆくだろう。

わたしはいまでも、あのときわたしがうしかいのちようちんにともしてやった火が、から次へうつされて、どこかにもっているのではないか、と思います。

注釈）子どもだったじぶん：子どもだった時

よつびて：一晩中

「ひとつの火」新美 南吉

（1）

ア

「や、ありがとうございます。」とありますが、だれが話した会話ですか。もっともふさわしいものを次の1～4の中から一つ選びましょう。

レベル5

- 1 わたし
- 2 うしかい
- 3 牛
- 4 きつね

2

「や、ありがとう」の会話文の前後を読み取り、だれが、だれに話した内容なのかを考えてみましょう。

（2）

イ

「わたしのもとしてやった火はどこまでゆくだろう。」とありますが、火がうつさ
れていく様子について、ノートに整理しました。ノートに整理した文にあてはまる言
葉を文章中からさがし、十七字で書きぬきましょう。

レベル8

わたしのマッチの火

うしかいのちようちんの火

旅人のちようちんの火

た	こ	や	か	ね	を	持	っ	た
お	い	ぜ	い	の	人	々		
お	お	ぜ	い	の	人	々		

のちようちんの火

「旅人から火をかり、みんなのちようちに火をつけるだろう。」
という文から、「旅人のちようちんの火」から「みんなのちようち
んの火」にうつされたことを読み取ります。そして、「みんな」と
はだれなのかに注目して、□にあうように書きぬきましょう。